

## (様式第2号)

## 団体の概要書

団体名	(ふりがな) (とくていひえいりかつどうほうじん かんさいこどもぶんかきょうかい) 特定非営利活動法人 関西こども文化協会		
主たる事務所の所在地	〒553-0006 大阪市福島区吉野4丁目29番20号 大阪NPOプラザ207号		
代表者氏名	(ふりがな) (やなせ まさこ) 代表理事 柳瀬 真佐子	構成員数	正会員 75 人
設立(活動開始)年月	1996年 6月	NPO法人 認証年月	1999年 6月
主な活動地域	大阪市内(大阪NPOプラザ・ドーンセンターなど)を中心に、大阪府・京都・兵庫など 関西全域で幅広く市民に向けた活動を展開。		
ホームページの有無	有 (URL <a href="http://www.kansaikodomo.com">http://www.kansaikodomo.com</a> ) / 無		
団体の設立経緯	国連「子どもの権利条約」の具現化をミッションに掲げ、子どもたちが安心して学び生活できる、自分に自信がもてる、自由を享受できる教育・文化環境の創造を基本方針として設立。この条約を子どもが行使できる環境の基盤整備をめざす。また、子育て・教育NPOを支援する中間支援組織として2005年に大阪NPOプラザに入居。さらに多様な活動を展開している。		
これまでの主な活動実績	<p>国連「子どもの権利条約」の実現に向け、各事業部門で子育て環境と教育環境の整備に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、「国連子ども権利条約」推進部門では、子どもの自立に向けての教育環境の整備をめざし、非行・不登校・虐待などの課題解決のシンポジウムなどを実施。学習支援事業「小河学習館」では、小学4年生から高校1年生までの子どもたちに家庭での自学自習による生きる力としての学力向上を図っている。</li> <li>2、次世代育成支援部門では、子育てに自信を持ち、安心して子育てができる環境整備をめざし、一時保育、ファミリーリソースセンター運営、支援者人材育成などを実施。2003年から大阪府立女性総合センター保育室を運営し、年間約450人の子どもの保育を通し保護者の学びをサポートしている。</li> <li>3、企画・情報提供部門では、行政、企業、民間団体、PTA、子育て支援NPOなどへの企画提供、講師派遣などを実施。また情報誌『インファerno』を年4回発行(A4版12ページ、1,000部)。</li> <li>4、教育・子育て調査研究部門では、これからの子ども・子育て家庭の支援者養成プログラムやユースワーカー養成プログラムの開発を研究者と一緒に取り組む。</li> <li>5、人材派遣事業部門では、留守家庭指導会指導員や保育者の派遣を実施。子どもの成長発達を保証するとともに、保護者の子育ても応援する活動を実施している。</li> <li>6、相談事業部門では、大阪市と協働で24時間いじめ電話相談を実施。相談員の養成、研修を継続的に実施しながら、子どもを取り巻く現状の分析と課題解決に向けた積極的な提言を行う。</li> <li>7、市民活動コーディネート・ネットワーク部門では、ボランティアコーディネーションとNPOのインキュベーション、マネジメント支援をとおして、次世代育成に関わる人材を育成している。</li> </ol>		
事業年度	4月 1日 から 3月 31日		
活動分野	※下表「活動分野別リスト」の番号をご記入ください。 2、3、4、10、11、17		

【活動分野別リスト】

1 保健・医療・福祉の増進	7 地域安全	13 科学技術振興
2 社会教育の推進	8 人権擁護・平和の推進	14 経済活動活性化
3 まちづくりの推進	9 国際協力	15 職業能力開発・雇用機会拡充
4 学術・文化・芸術・スポーツ振興	10 男女共同参画	16 消費者保護
5 環境保全	11 子どもの健全育成	17 市民活動支援
6 災害救助	12 情報化社会	

<p>貴団体の活動において、NPOならではの特性を活かしている点</p>	<p>以下の専門性を生かして、子どもの健全育成だけでなく、まちづくりや男女共同参画の視点を持って、社会教育の推進や市民活動支援に取り組んでいる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、子育て・教育・次世代育成に先駆的に取り組み、乳幼児期から青年期にいたるまでの支援に関する実績・ノウハウがあること。</li> <li>2、理事・アドバイザーに子育て・教育・次世代育成の専門家を有していること。子育て、教育、次世代支援NPOとのネットワークがあり、専門機関とも幅広く連携していること。</li> <li>3、市民の立場から、行政機関や民間組織とともに力をあわせて、市民社会の実現をめざすことができること。</li> <li>4、啓発、相談、情報発信などの中間支援活動だけでなく、子どもへの直接支援活動となる現場が複数あるので、子どもや青年、子育て中の親のニーズを聴くことができ、知識や情報だけでは対応できない、現場を重視した実践的活動をすることができること。</li> </ol>
<p>貴団体の活動を多くの市民に周知するために行っていること</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、情報誌『インファノ』を発行（年4回、A4版12ページ、1,000部）現代の子育てを取り巻く状況と全てのおとなの責任としての次世代育成を推進するために、NPO支援センター、公共施設、教育・子育てのNPO、研究者、そして市民に情報提供を行う。</li> <li>2、WEBの活用（ホームページの設置・更新）当会の広報だけでなく、NPOや行政、企業の次世代育成に関する情報も集約し掲載している。</li> <li>3、パンフレット・事業チラシの配布、MLの活用、会員・賛助会員・購読会員の拡大</li> </ol>
<p>貴団体の活動における現在の課題</p>	<p>子育て・教育分野の中間支援（インターメディアリー）NPOとして、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、子ども支援の現状の把握、課題の分析、専門性の向上による支援機能の強化を図り、社会の子育て支援の中核的な役割を担うことができる事務局スタッフの人材育成。</li> <li>2、子どもへの直接支援活動となる現場が複数あり、ボランティアに求めたい資質も多岐にわたるため、ボランティアコーディネートやスキルアップを促す取り組みをおこなう専門スタッフの人材育成。</li> <li>3、次世代育成を全てのおとなの責任ととらえ、社会で子育てしていく機運を高めていくための、新規のコンテンツの開発。</li> </ol>
<p>貴団体の活動の将来展望</p>	<p>中間支援のモデルとしてファミリーリソースセンター運営を日常的に行いながら、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、現場運営（保育・相談・不登校の子どもの居場所・子育てひろば等）と課題対応事業の企画・実施。</li> <li>2、専門家との連携やソーシャルワーク、ボランティア・市民参画のコーディネート。</li> <li>3、社会への啓発、施策提言（子どものアドボカシー）をおこなう中間支援という3大機能の向上を図ることで、民間の子どものための総合相談窓口になること、NPO（市民）が次世代を育成するために必要な役割であることを社会から認知されることをめざす。</li> </ol>

<p>当基金に登録を希望する理由</p>	<p>子どもたちが安心して安全に暮らしていくためには、子育て・教育・次世代育成への取り組みを安定的・継続的に進めていくことが必要となる。基金に登録し、市民・NPOの育成や活動を推進し、個人・団体・企業の枠を超えた市民社会の構築をめざす事業を実施したいと希望する。</p>
<p>貴団体が当基金をPRするためにできること</p>	<p>基金を受けた事業を実施することによって、幅広い層の市民に基金の意義・活用状況などを、事業チラシや当会発行の情報誌、HP上で発信することができる。また、HPなどに基金の情報についてリンクを貼ることができ、市民のアクションを広げる基金そのもののアピール活動に協力することができる。</p>
<p>市民に対するPR</p>	<p>※市民に向けPRメッセージをお書きください。  子どもたちの「明日」のために、「今」、あなたの力が必要です。子ども自身が生きがいを感じ、夢を実現させ、幸せを実感できる社会づくりを。これが関西こども文化協会の原点です。</p>
<p>確認事項</p>	<p>この申請書に記載する事項に間違いありません。</p> <p>代表者氏名 <u>柳瀬真佐子</u> 印  (氏名自署の場合は印不要)</p>